

# 日本で麻農業をはじめよう

## 聞いておきたい 大麻草の正しい知識

本連載では、大麻草を研究テーマに掲げて博士号を取得した赤星栄志氏が、科学的な視点でこの植物の正しい知識を解説し、国内での栽培、関連産業の可能性を伝える。今回から2回にわたって、国内で麻栽培を始めた事例を紹介したい。まず紹介するのは、栃木県那須高原で和牛繁殖から麻栽培に転じた夫婦の事例である。東日本大震災をきっかけに栽培免許を取得し、2013年に初めて麻を栽培し、繊維を収穫するに至るまでを聞いた。

### 14 新たな麻栽培の試み

2013年度に新たに大麻草（以降、麻）栽培を始めた渡辺和資・よし江夫妻は、栃木県的那須高原で50年以上も稲作2・5ha、約100品目の無農薬野菜30a、黒毛和牛繁殖（14頭）を組み合わせた循環型農業を営んでいた。しかし、11年3月の福島原発事故をきっかけに和牛繁殖の廃業を決定し、それに替わるものとして麻の栽培免許を取得し、麻農家へ転身を図った。栽培に至るまでの経緯や初めて麻を栽培してみた感想など現場の声を紹介する。



**赤星 栄志**  
あかほし よしゆき

1974年滋賀県生まれ。日本大学農獣医学部卒。同大学院より博士号（環境科学）取得。学生時代から環境・農業・NGOをキーワードに活動を始め、農業法人スタッフ、システムエンジニアを経て様々なバイオマス（生物資源）の研究開発事業に従事。現在、NPO法人ヘンプ製品普及協会理事、日本大学大学院総合科学研究科研究員など。主な著書に、『ヘンプ読本』（2006年・築地書館）、「大麻草解新書」（2011年・明窓出版）など。

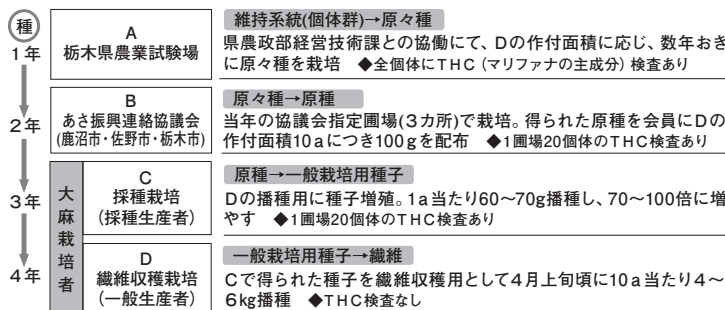
連絡先：麻類作物研究センター  
akahoshi@hemp-revo.net

**Q.** 麻に注目したきっかけは？  
**A.** 福島原発事故が起こった直後から14頭の繁殖用和牛が流産しやすくなり、餌代ばかりがかかるようになってしまして……。商売に限界を感じていた11年4月中頃に群馬県の麻農家から麻のことを教えてもらいました。それから栃木県の麻農家で有名な大森由久さんに相談したりして、いろいろと下準備を始めました。

**Q.** 栽培免許取得は大変でしたか？  
**A.** 栃木県で麻農家になるには、栽培地の市町村役場と栽培希望農家が鹿沼市経済部農政課に事務局を置く「あさ振興連絡協議会」に加入することが必須条件となります。12年9月頃に協議会の会長さんと面接をした結果、加入が認められ、事情を察して全面的に支援していただけることになりました。さらに、大麻栽培免許の申請窓口である県の農政課に相談したら、免許許可権をもつ県業務課に話しておくということで協力が得られました。保健所の担当者も偶然にも前任先が麻産地の鹿沼市で、良きアドバイザーになってくれました。その後、関係各所の粘り強い働きかけによって13年2月に免許を取得できたのです。

**Q.** 種子や麻の専用農具の調達は？  
**A.** 私たちが取得した10aの栽培許可は、7aが繊維採取用、3aが種子採取用でした。通常、新規の麻栽培者が入手できる種子は少ないので、1年目は種子を増やし、2年目から繊維をとります（図1）。協議会の会長さんが種子から道具までを手配してくれたおかげで、1年目か

図1：栃木県における無毒大麻品種「とちぎしろ」管理体制



※初年の原々種の栽培 (A) から繊維収穫 (D) まで4年かかる

引用：栃木県農政部経営技術課の資料より



写真1：渡辺夫妻が初めて収穫した精麻



写真2：大学生とともに東京のイベントに出店

ら繊維を収穫することができま  
た。

道具は、麻専用の播種機、カッツ  
アビと呼ばれる中耕用具、刈り取り  
に使う麻切り包丁、収穫した麻茎を  
湯につける鉄砲桶、精麻をつくる  
きを使う電動の麻挽き機など、一  
式で11万円。麻干しに使うビニールハ  
ウスは長さ27mのものを3棟譲つて  
もらいました。栽培技術的なことも  
県内関係者の皆さんに随分とお世話  
になりました。

Q. 今年の栽培状況は？

A. 繊維採取用は4月28日に播種し、

3m弱まで成長した麻を7月30日  
8月6日に刈り取りました。種子採  
取用は、5月28日に播種し、10月20  
日に刈り取りました。種子は食用と  
して販売するためではなく、翌年度  
に播くためのものです。麻の繊維を  
取るための作業小屋をまだ作ってい  
ないので、現段階では刈り取った麻  
の3分の1から繊維がとれました  
(写真1)。まだ全体でどのくらい取  
れるかは分かりません。

Q. 実際に栽培してみた感想は？

A. 麻は面白い！ 聞いていたとお  
り、実際に畑作業をしても疲れませ  
ん。農家にとっては何よりも経費が  
かからないのがとても良いと思いま  
す。具体的には、酪農や稲作と比較  
して大型の農機も除草剤などの農薬  
もありません。昔からの道具や人手

で十分なのです。

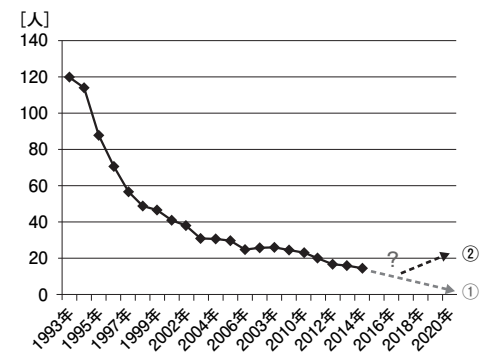
繊維を取った後の茎である麻幹  
(オガラ) を使ってカマドで焚いた  
ご飯は最高にうまい！ 麻って不思  
議な力があるんじゃないかな。でき  
た繊維は、まずは那須温泉神社に奉  
納します。今やほとんどの神社の麻  
も中国産やビニール製なので、そ  
こから変えていかないと。

Q. 今後の展開は？

A. 14年度は2倍の20aに栽培面積  
を増やしますが、まずは電動式の麻  
挽き機の技術をしつかりとマスター  
することです。この作業の能力次第  
で栽培面積をどこまで広げられるか  
が見極められるでしょう。14年度か  
らは高齢を理由に麻栽培をやめる農  
家から道具一式を手に入れました。  
できた精麻は、卸売ではなく、お客  
さまに直接販売していきたいです  
ね。また、畑に大量に残っている麻  
の葉を使った完熟堆肥をつくって、  
田んぼに還元したい。その名も「麻  
の舞」、たぶんおいしいコメが育つ  
と思いますよ(笑)。

うちは学生や社会人の農業体験生  
の受け入れや予約制の農家レストラ  
ンもしているので周りから人が多く  
集まります。彼らにも麻畑を見せて  
じっくりと説明をしました(写真  
2)。新規の麻農家といっても若く

図2：起死回生の岐路にある栃木県の麻栽培者数



引用：厚生労働省の資料より

ないので、これから麻栽培を始めた  
いと考えている若い人たちが応援で  
きればと思っています。

栃木県は全国一の麻生産県といえ  
ども4haを割り込んでいて、13年度  
で16名しかいなかった麻農家は2軒  
やめて14年度は14名になる。神事  
や伝統工芸などで麻繊維の一定の需  
要があるにも関わらず、これまで新  
規の麻農家の参入や育成に対して、  
世間での大麻の偏見もあってなかな  
か前に進まなかった。図2のように、  
栃木県内の麻栽培がこのまま絶滅し  
てしまうシナリオ①になるか、新規  
参入が増えるシナリオ②になるか、  
まさに起死回生の岐路にある。そん  
ななかで、渡辺夫妻の試みは、栃木  
県の希望になりそうだ。